



IIRC に関わるすべての皆さまに謹んで新年のお祝いを申し上げます！
現在も続いている厳しい時局を、皆さまが安全と健康を維持しながら乗り越えられますよう、
心より祈念いたします。明らかな課題はあるものの、
今年はチャンスのある1年になると考えており、企業の力強い回復をサポートできるように、
皆さまと力を合わせていくことを楽しみにしています。



2020年という厳しい1年から私たちが学ぶ教訓があったとすれば、それは、個人あるいは企業や社会として、新たな価値観と評価の方法を見極めることの重要性です。

IIRC では、統合思考および統合報告、そして SASB（サステナビリティ会計基準委員会）との合併を通じ、市場の価値創造に取り組む方法に進化をもたらすことができると確信して2021年を迎えています。そして今年1年、情報の信頼性を高め、さまざまな組織の行く手に立ちふさがる多くの課題と向き合うだけで

なく、困難の中で新たなチャンスを掴み取るお手伝いをしてまいりたいと考えています。

こうしたことから、今年の IIRC が目指すべきものは明確です。企業の報告環境の統一を推進し、統合思考と統合報告がグローバルに採用される環境を構築することです。こうした目標を達成すべき時代がいつに到来したことは疑いようがありません。今年 IIRC が皆さまにお届けする大きな成果にご期待ください。

2020 年は 10 周年記念レポート [\(こちらをお読みください\)](#) の発行と、3 日間にわたるグローバル・カンファレンスで締めくくり、CDP、CDSB (気候変動開示基準委員会)、GRI (グローバル・レポーティング・イニシアチブ)、SASB のパートナーたちと協力しつつ、企業・組織価値の堅牢な報告システムづくりに向け、新たに [重要な一歩](#) を踏み出しました。

IIRC は、昨年の勢いを保ったまま、新年を迎えることができました。

改訂版「国際統合報告フレームワーク」

IIRC では、2020 年を通じて実施した大規模なコンサルテーション (協議) の結果、改訂版「国際統合報告フレームワーク」を 1 月 19 日火曜日に公開する予定です。

IIRC のグローバル協議では、「統合報告フレームワーク」は目的に適していると示されましたが、最新の状況に適するためいくつか明確にすべき点や見直しが必要です。

詳細については、12:00 (グリニッジ標準時) にオンラインで開催予定の発表会 (オンライン) にご参加ください。ご参加登録は [こちらから](#)。

Charles Tilley (IIRC、CEO)、Michelle Edkins 氏 (Black Rock、マネージングディレクター)、Sandra Schoonhoven 氏 (ING グループ、サステナビリティ責任者)、Suresh Gooneratne 氏 (Diesel & Motor Engineering、CFO)、Lisa French (IIRC、チーフテクニカルオフィサー) が登壇します。

グローバルに連携したシステム

IIRC はサステナビリティ報告に関する IFRS 財団評議員会の協議に応え、こうした報告分野への関与を評議員の皆さまに奨励し、包括的かつグローバルな企業報告システムを提供できるように支援します。

IIRC では企業の価値創造に関するサステナビリティ情報を発信する、既存のグローバルなフレームワークやスタンダードを統一する方法を提唱しつつ、より広範なステークホルダーのニーズや財務報告との関係性に役立つスタンダードとの連携を構築しています。

こうした段階的アプローチは重複を避け複雑さを排除し、単純明解さや採用し易さを強化し、世界中の資本市場の断片化を回避することに役立ちます。IIRC と SASB との合併はこうした方向に大胆な一歩を踏み出すことを意図しています。

EFRAG の協議に IIRC が応えたことも同様の意図によるもので、グローバルな発展と欧州レベルでの思い切った行動が相互に補完し合う状況を奨励するためです。

統合報告の役割

2020年9月の声明に基づき、CDP、CDSB、GRI、SASB のパートナーとの包括的な報告システムに向けて、12月にはさらに前進することができました。

明日(2021年1月12日)、共同レポートで述べている報告の意義を、各機関の CEO の話からお確かめください。ウェビナーへのご参加希望の方は、[こちらからご登録をお願いします。](#)

また、共同告知およびレポートは、[こちら](#)でお読みいただけます。

この重要なレポートは統合報告にどのように貢献するのでしょうか。同レポートでは、企業価値の開示に関する報告のフレームワークとして、「国際統合報告フレームワーク」が果たす役割について説明しています。

今回初めて、「統合報告フレームワーク」の資本に代表されるすべての価値ドライバーを、財務資本を除いてサステナビリティに関する事項であると定義しました。「財務資本」を除く5つの資本は自然、人的、社会・関係、知的、製造資本です。

これはサステナビリティに関する基準を進化させ、将来的に企業がこれらすべての資本に関する指標とデータを提供し、強固で信頼性の高い統合報告を行えるようにすべき、ということの意味します。

SASB との統合に際し当面の優先事項の一つは、持続可能性に関わる5つの側面を「統合報告フレームワーク」の資本と整合させることです。

IIRC は今後も比較可能性と相互運用性を実現するための、共通した定義化を推進してまいります。

「ダイナミック・マテリアリティ」

成功する企業は、持続可能な発展を通じて社会のさまざまなニーズを満たし、長期的な実行可能性に焦点をあてることによってステークホルダーのニーズを満たし、さらには投資に対するリターンを通じて投資家のニーズを満たす必要があります。

これが「ダイナミック・マテリアリティ」というコンセプトの核心であり、9月の意向表明においてパートナーと初めて共同発表し、共同レポートで展開したものです。これにより、企業は「社会」「企業価値の創造」、および「財務リターン」という3つのレンズを通して情報を考慮することが可能になります。

私たちは気候変動への取組みの緊急性を考慮し、同レポートで気候関連開示に関わる基準（プロトタイプ）を開発しました。これはTCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）が設定した推奨事項と共に、我々のフレームワークや基準の要素が、気候関連の財務開示基準を開発するための基礎となるでしょう。この基準（プロトタイプ）は、企業がマテリアリティを検討する際に3つのレンズを考慮するように推奨しています。マテリアリティが前述した3つのレンズ間を移動することが、「ダイナミック」の意味です。

こうしたアプローチにより、データを一度収集してから、報告書の多様な利用者にそれぞれ適切に報告することが可能になります。報告内容の重複を減らすことにも繋がり、更にこれは報告品質や比較可能性の向上、サステナビリティに関わる問題が企業価値の創造・保全・毀損にどのような影響を及ぼすのか、という点に関して透明性を高めることに繋がります。

共同レポートは、サステナビリティに関する事項のパフォーマンス開示は、理想的にはすでに財務会計や開示に反映されている情報とともに報告されるべきであり、これらの情報の連結性を促進するために「統合報告フレームワーク」の指導原則が用いられていることが明らかにされています。

CDP、CDSB、GRI、およびSASBとの統一というアプローチは、グローバルな企業報告の在り方はステークホルダーが要求する厳密性や期限に応えられることを示しています。

統合思考へのフォーカス

今年我々が達成したいことにとって、統合思考は不可欠なものです。統合思考は企業で求められる行動の変化を促します。統合思考は企業が企業価値にアプローチするにあたって、報告の方法だけでなく、思考、計画、行動にも一貫性をもたらします。

IIRCの「統合思考および戦略グループ」では引き続き、さまざまな組織が統合思考をどのように戦略やビジネスモデルに組み込んでいるかを分析するケーススタディを公開します。現在、ABN AMROとSolvayによるケーススタディが[IIRCのウェブサイト](#)で入手できますが、近日中にその他の事例も追加する予定です。

「統合報告ビジネスネットワーク」

世界の多様性豊かな先進的組織で構成されるIIRCの「統合報告ビジネスネットワーク」では、統合報告という旅路を互いに改善し、学び、知見をシェアし、励まし続ける協力体制を充実させてまいります。

また、統合報告を初採用する予定の企業を支援するための「スタートアップガイド (Getting Started Guide)」を公開します。

当評議会は統合報告と SDGs に関する団体と、アジアにおける統合報告の普及に向けた団体を立ち上げることを目指します。これらの団体への参加方法の詳細は、businessnetwork@theiirc.org までお問い合わせください。

また、当評議会の「年金基金向け統合報告投資家ダイアログ (<IR> Investor Dialogue for Pension Funds)」のレポートを通じて、ますますニーズが進化している投資家の皆さまとの関係を引き続き深めてまいります。

これからも皆さまと共に

IIRC (および SASB との統合後の「Value Reporting Foundation」) は、常に市場のニーズに基づき、統合思考と統合報告が持続可能な発展と財務の安定をもたらすと信じる人びとのための、広範な連合であり続けたいと願っています。

2021 年も皆さまと共にこのプロジェクトを進めていくことを楽しみにしています。ご質問、アイデア、コメント等は、普段使用している IIRC への連絡先か、info@theiirc.org までメールにてお寄せください。



Copyright © 2021 International Integrated Reporting Council, All rights reserved.

You are signed up for this newsletter because you have subscribed to the IIRC's mailing list or participate in one of our networks.

Our mailing address is:

International Integrated Reporting Council
The Helicon, Third Floor
1 South Place
London, EC2M 2RB
United Kingdom

[Add us to your address book](#)

Want to change how you receive these emails?

You can [update your preferences](#) or [unsubscribe from this list](#).